

モンロビア広域圏でのマルチリスク評価の支援 (プロジェクト期間：2020年2月3日—2022年1月31日)



出典：世界銀行

プロジェクトの課題と目的

長年の紛争や政情不安により、リベリアは世界における最貧国の一つとなりました。同国のモンロビア広域圏には、都市人口の半分、すなわち全人口の4分の1が居住しています。モンロビアの経済・社会基盤は貧困や脆弱性、労働や居住などのインフォーマル性を内包していて不安定であり、地理的特徴も相まって同地域は洪水に対し非常に脆弱です。気候変動と共に洪水の頻度や強度は今後更に増すことが予測されます。

[日本—世界銀行防災共同プログラム](#)の技術支援プロジェクト「[モンロビア広域圏でのマルチリスク評価の支援](#)」は、モンロビア広域圏における複合災害や気候変動リスクに関する知識や理解を深め、将来的なインフラへの投資に貢献することを目標としています。

その目的で、洪水予測モデルの活用などによる災害リスク評価の改善、気候変動シナリオ分析、気候変動リスクの高い地域を示すマップの製図、そしてエリアごとの気候変動対策の提言を行います。本技術支援はモンロビア広域圏の包括的な都市開発や強靱化戦略に貢献し、リスク最小化や投資による利益最大化に必要な政策に寄与することが期待されます。

日本の知見を活用

本技術支援により洪水リスク評価が実施され、報告書「[モンロビア広域圏の洪水リスク・プロファイル：リスク報告\(仮訳\)](#)」に結果がまとめられました。リスク評価では、日本のNTTデータとリモート・センシング技術センター(RESTEC)が共同開発した世界初の全世界の高解像度3D地図「AW3D」が重要な役割を果たしました。洪水予測モデルの構築には地形データを始めとする膨大なデータが必要となります。最新鋭のリモート・センシング技術を活用して得られたAW3Dのデータは、最高0.5m解像度の高精度なものであるため、モデル構築に大きく貢献しました。

また、国際協力機構(JICA)が2009年に策定したモンロビア広域圏の[都市施設復旧・復興整備マスタープラン](#)は重要な土台となり、マスタープランを礎に本技術支援は今後、モンロビア広域圏の強靱化に更に寄与することでしょう。

今後に向けて

本技術支援による詳細な洪水リスク評価は、モンロビア広域圏の洪水リスクに対する知識と理解を増進し、同地域における世界銀行の統合都市開発・強靱化戦略に貢献します。

現在、世界銀行では投資事業「[モンロビア統合開発プロジェクト\(仮訳\)](#)」を計画中であり、同プロジェクトはモンロビア都市部の生活状況や気象災害への強靱化、統合都市管理における行政や制度面での能力強化を目標としています。モンロビア統合開発プロジェクトには道路照明、衛生処理、水道、市場・公共スペースの改善など、一連の投資事業が含まれる予定です。今般のリスク評価は、そうした投資事業に気象災害への強靱化を組み込むことを可能にするため、プロジェクトの準備に大きく貢献します。